

2016. 1. 27

国立病院機構 別府医療センター

小児科・NICU 2015年 年報



別府医療センター 小児科

1. 2015 年 小児科入院統計

1) 入院数と転帰	4
2) 月別の入院数	4
3) 時間帯別の入院数	4
4) 年齢別の入院数	5
5) 入院数の年次推移	5
6) 入院患者の疾病区分	6
7) 救急車の受入数	7
8) 人工呼吸管理症例	7
9) 手術症例	7
10) 死亡症例	7

2. 2015 年 小児科外来統計

1) 外来患者数	8
2) 外来患者数の年次推移	8
3) 紹介患者数と紹介元医療施設	9

NICU（新生児集中治療室）

3. 2015 年 NICU 入院統計

1) 入院、転帰	10
2) 在胎週数、出生体重	10
3) 呼吸管理症例	11
4) 手術症例	11
5) 入院数等の年次推移	11
6) Category 別の推移	12
7) 他院への転院症例	13
8) 新生児用救急車の出動形態	13
9) 新生児用救急車の出動先	13
10) 死亡症例	13

4. 研究業績

5. 総評

1) 2015 年の特徴

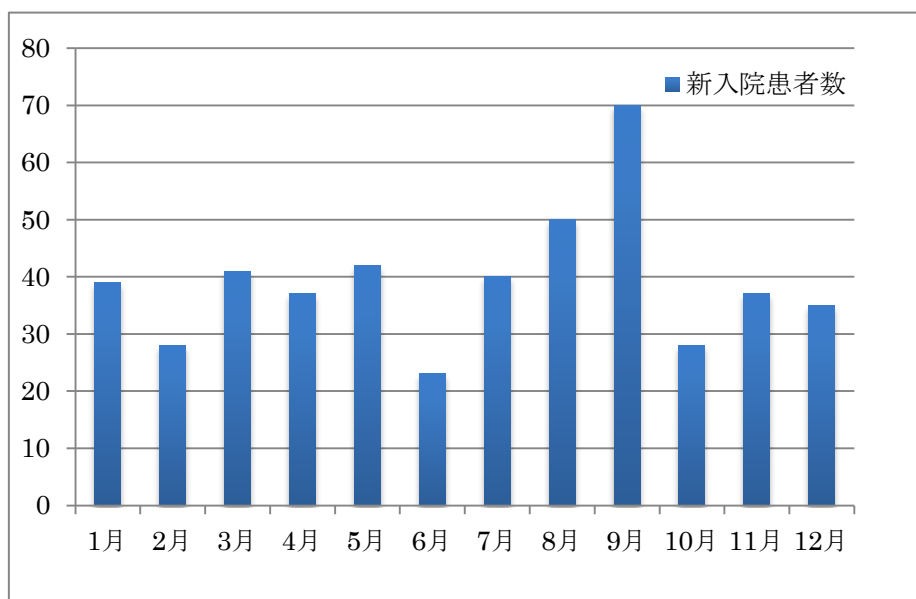
2) 2016 年の目標

1. 2015年 小児科入院統計

1) 入院数と転帰

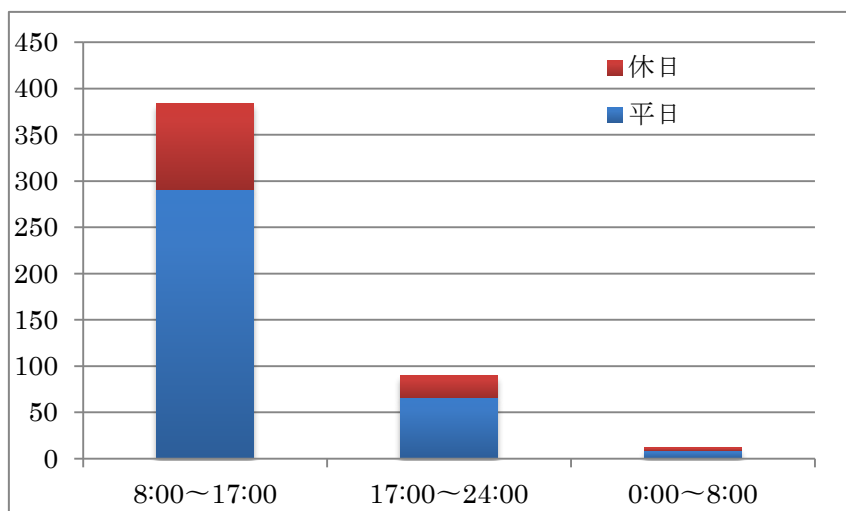
	入院		死亡	
入院総数	623		3	(0.5%)
小児科	470	(75%)	2	(0.4%)
NICU	153	(25%)	1	(0.6%)
生存退院	620		死亡退院	3 (剖検数 0)

2) 月別の入院数



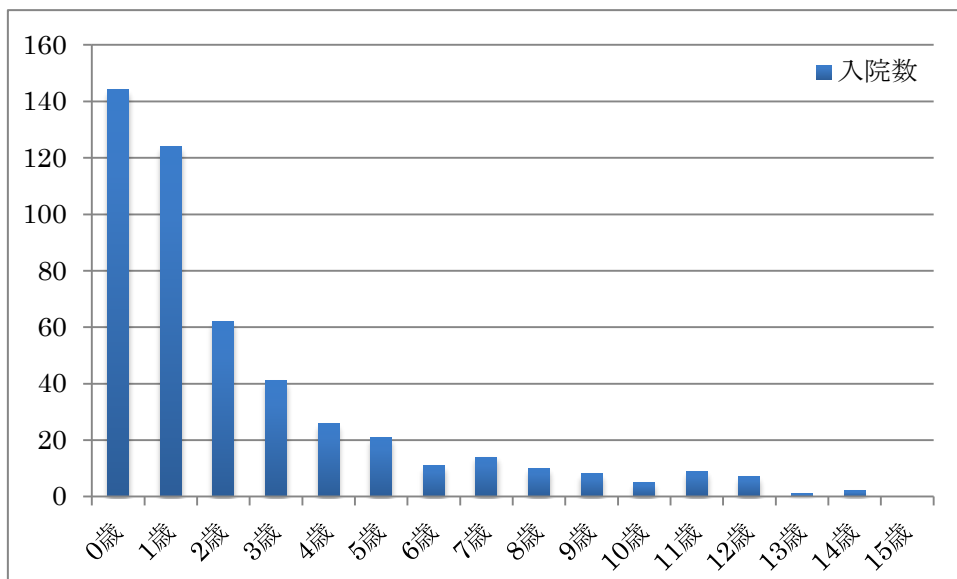
※NICU 入院患者は除く

3) 時間帯別の入院数



※NICU 入院患者は除く

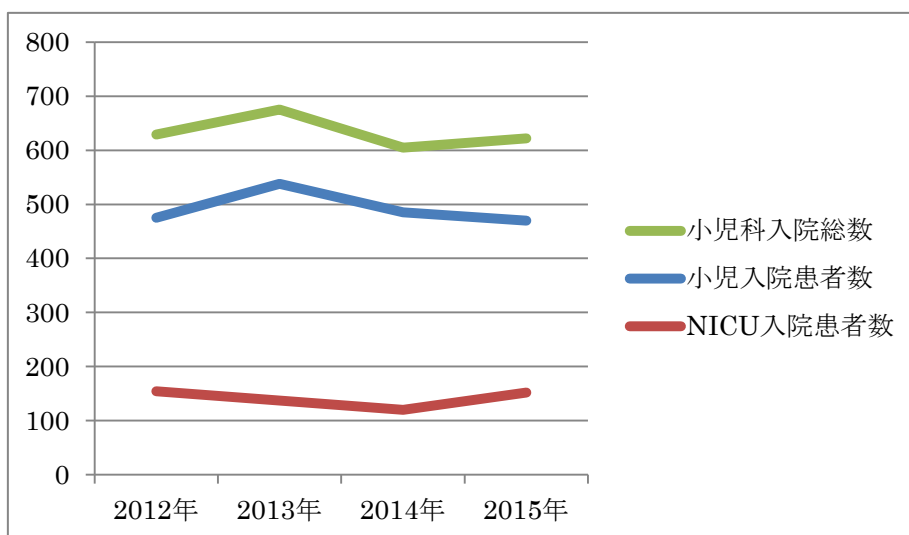
4) 年齢別の入院数



※NICU 入院患者は除く

5) 入院数の年次推移

	2012年	2013年	2014年	2015年
小児入院患者数	475	538	485	470
NICU 入院患者数	154	137	120	153
小児科入院総数	629	675	605	623



6) 入院患者の疾病区分

疾病区分	入院数	主な疾患内訳	症例数
感染症	305	RSウイルス感染症	88
		急性気管支炎	39
		急性肺炎	31
		肺炎マイコプラズマ感染症	20
		ロタウイルス感染症	15
		その他の急性胃腸炎	11
		アデノウイルス感染症	11
		急性咽頭炎	10
		ヒトメタニューモウイルス感染症	8
		インフルエンザ(A型)	7
		尿路感染症	7
		敗血症	7
		新生児感染症	6
		急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍	5
		蜂窩織炎	5
		頭部リンパ節炎	5
		無菌性髄膜炎	4
		急性喉頭炎	4
		突発性発疹症	4
		その他	18
神経・精神疾患	44	熱性けいれん	19
		てんかん	5
		けいれん重積	4
		その他の無熱性けいれん	3
		胃腸炎関連けいれん	2
		急性出血性ショック脳症	1
		慢性硬膜下血腫	1
		神経性食思不振症	1
		Bell麻痺	1
		その他	7
アレルギー性疾患	49	気管支喘息	37
		アナフィラキシーショック	4
		食物アレルギー	4
		アレルギー性じんましん	3
		Henoch-Schonlein紫斑病	1
川崎病・自己免疫/炎症性疾患	15	川崎病	15
腎・泌尿器疾患	2	精巣捻転症	1
		尿道脱	1
内分泌・代謝性疾患	7	アセトン血性嘔吐症	3
		甲状腺機能低下症	2
		低身長	2
消化器疾患	12	急性虫垂炎	5
		腸重積症	3
		腸閉塞	2
		その他	2
血液・悪性腫瘍	4	特発性血小板減少性紫斑病	1
		遺伝性球状赤血球症	1
		その他	2
事故・外傷・中毒	18	外傷(腹部・頭部)	6
		異物誤飲	5
		急性硬膜下出血	1
		溺水	1
		熱傷	1
		急性アルコール中毒	1
その他	3		
その他	14	脱水症	2
		循環血液量減少性(出血性)ショック	1
		妊娠悪阻	1
		その他	10

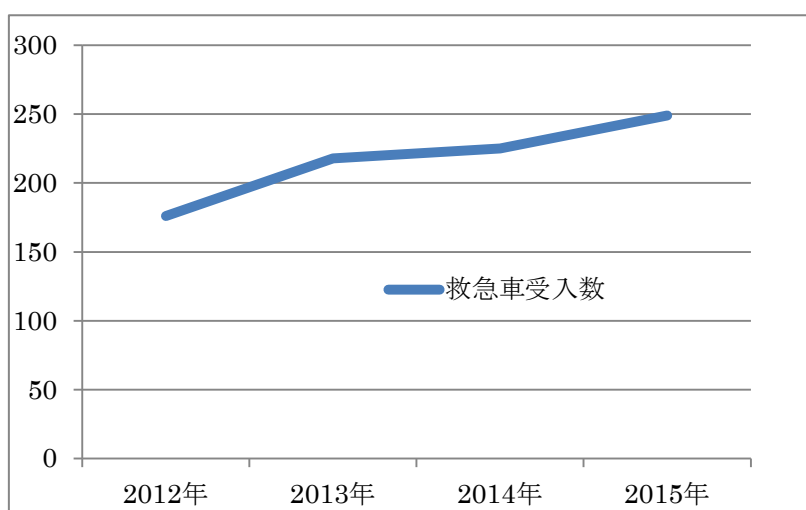
※ NICU 入院患者は除く

7) 救急車の受入数

月別受入数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入院管理	4	5	4	2	9	7	8	10	10	3	2	6	60
外来管理	19	11	11	7	15	18	23	13	12	16	15	19	179
計	23	16	15	9	24	25	31	23	22	19	17	25	249

受入数の年次推移



8) 人工呼吸管理症例

3例 (急性脳症1例、敗血症1例、感染による上気道閉塞1例)

9) 手術症例

診断	術式	例数	手術担当科
急性虫垂炎	虫垂切除術	1	消化器外科
IgG4 関連疾患	頸部腫瘍摘出術	1	耳鼻咽喉科
腸重積	空気整復術	3	小児科

10) 死亡症例

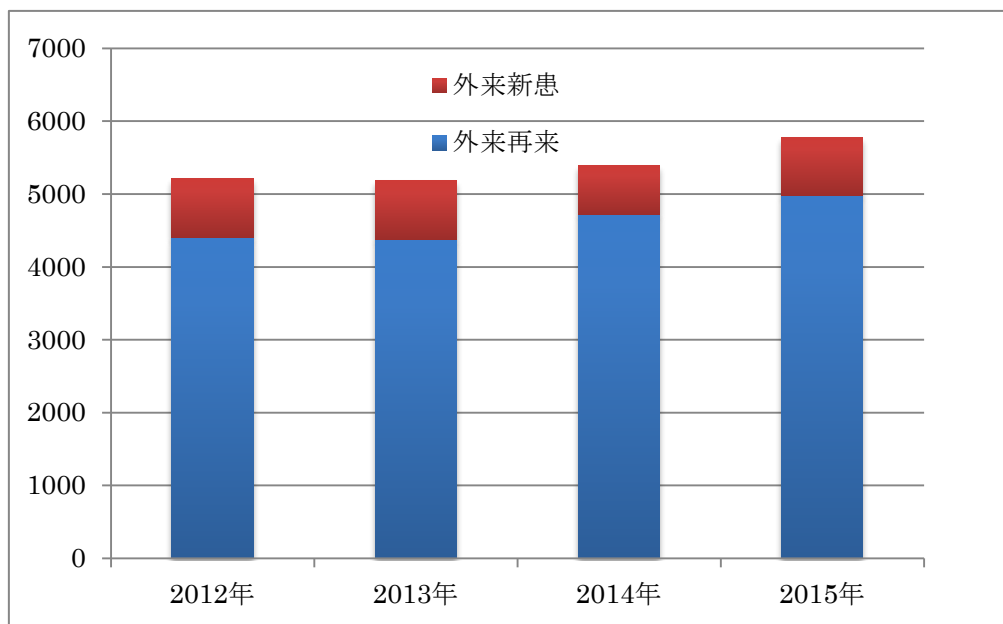
2例

2. 2014年 小児科外来統計

1) 外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新規外来患者数	51	62	75	64	61	71	71	84	62	69	53	70	793
外来患者総数	426	413	545	511	428	493	463	511	474	492	468	547	5771

2) 外来患者数の年次推移



3) 紹介患者数と紹介元医療施設

地域	地域別紹介患者数	紹介元医療施設	紹介患者数		
大分県	別府市	602	松本小児科医院	263	
		松井小児科医院	107		
		古城小児科医院	57		
		別府市夜間こども診療所	56		
		衛藤小児科医院	27		
		河野小児科医院	25		
		あおい産婦人科	22		
		矢田こどもクリニック	13		
		岩永レディースクリニック	11		
		別府発達医療センター	9		
		西別府病院	3		
		さとう小児科医院	2		
		松岡産婦人科	2		
		その他	5		
		日出町	92	矢野小児科医院	50
				てしまこどもの杜クリニック	40
		杵築市	27	サンライズ酒井病院	2
伊藤小児科循環器科医院	9				
みやうちウィメンズクリニック	7				
杵築中央病院	3				
杵築市立山香病院	3				
友岡医院	2				
菅原内科杵築	2				
くりやまレディースクリニック	1				
宇佐市	26			宇佐レディースクリニック	20
				佐藤第二病院	6
大分市	22	大分県立病院	10		
		大分こども病院	6		
		大分市医師会立アルメイダ病院	3		
中津市	6	その他	3		
		中津市立中津市民病院	5		
国東市	4	その他	1		
		朝倉内科医院	2		
東国東郡	2	その他	2		
由布市	7	姫島村国民健康保険診療所	2		
		大分大学医学部付属病院	6		
豊後高田市	3	その他	1		
		高田中央病院	2		
佐伯市	1	その他	1		
		西田病院	1		
福岡県	9	JCHO九州病院	7		
		福岡市立こども病院	1		
		九州大学病院	1		
その他県外	6		6		
計			807		

※ 新生児搬送を除いた小児科紹介患者数

3. 2014年NICU入院統計

1) 入院、転帰

入院と転帰

	入院		死亡	
入院総数	153		1	0.6%
院内出生	113	74%	1	
院外出生	39	26%	0	
(再入院)	(1)		(0)	
生存退院	152		死亡退院	1

2) 在胎週数、出生体重

在胎週数

週数 (wks)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
26	0	0	0	0	0	0	
27	0	0	0	0	0	0	
28	3	0	3	0	0	0	0%
29	2	0	1	0	1	0	50%
30	1	0	1	0	0	0	0%
31	1	0	1	0	0	0	0%
32	6	0	6	0	0	0	0%
33	4	0	4	0	0	0	0%
34	13	0	12	0	1	0	8%
35	16	0	15	0	1	0	6%
36	22	1	16	1	6	0	26%
37	30	0	22	0	8	0	27%
38	21	0	13	0	8	0	38%
39	21	0	13	0	8	0	38%
40	8	0	4	0	4	0	50%
41	3	0	1	0	2	0	67%
42	0	0	0	0	0	0	
計	151	1	112	1	39	0	26%

出生体重

出生体重 (g)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
500-749	0	0	0	0	0	0	
750-999	0	0	0	0	0	0	
1000-1499	10	1	9	1	1	0	9%
1500-1999	20	0	19	0	1	0	5%
2000-2499	51	0	40	0	11	0	22%
2500-2999	31	0	24	0	7	0	23%
3000-3499	32	0	16	0	16	0	50%
3500-	7	0	4	0	3	0	43%
計	151	1	112	1	39	0	26%

3) 呼吸管理症例

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
呼吸管理総数	25	21	28	18	15	20
IMV/HFV 単独	8	3	2	2	2	2
IMV/HFV + nasal CPAP	5	7	9	2	5	7
nasal CPAP 単独	12	11	17	14	8	11

IMV ; Intermittent Mandatory Ventilation (間欠的強制換気)

HFV ; High Frequency Ventilation (高頻度人工換気)

nasal CPAP ; nasal Continuous Positive Airway Pressure (経鼻的持続陽圧呼吸)

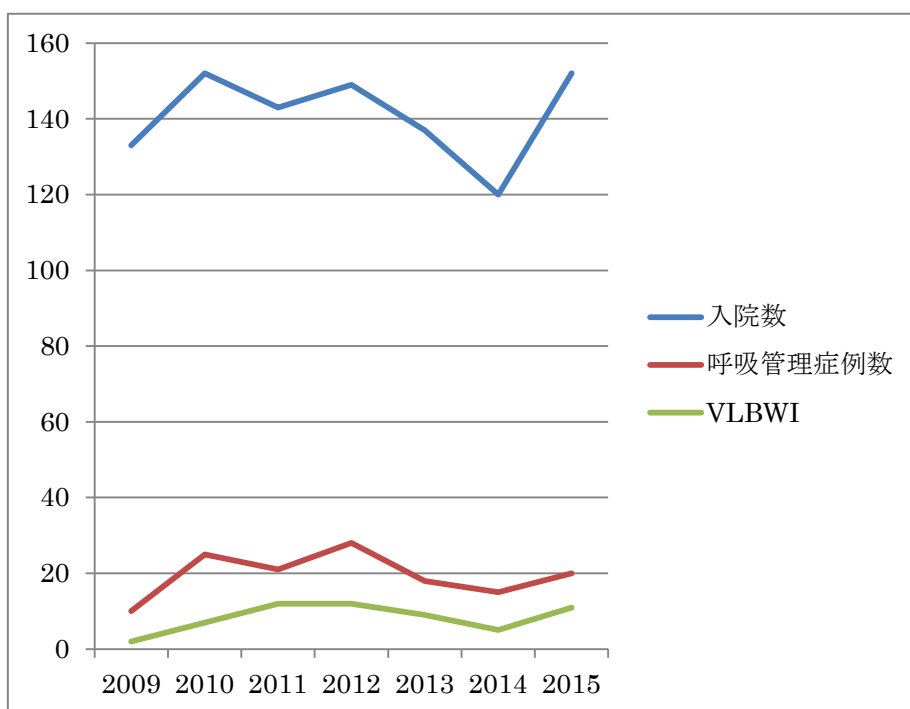
4) 手術症例

なし

5) 入院数等の年次推移

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
入院数	133	152	143	149	137	120	152
呼吸管理症例数	10	25	21	28	18	15	20
VLBWI	2	7	12	12	9	5	11

VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)



VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)

6) Category 別の推移

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
染色体異常	4	2	2	1	1	2	5
奇形症候群	1	3	5	10	2	0	6
先天性心疾患	7	9	7	3	7	9	6
外科的疾患	1	1	2	1	1	3	2
VLBWI	2	7	12	11	9	5	10
LBWI	55	62	58	72	51	52	64
新生児仮死	11	15	5	2	9	7	4
頭蓋内出血	1	0	0	0	0	0	0
神経疾患	0	0	1	1	0	0	0
感染症	4	5	4	1	3	1	2
呼吸障害	9	5	12	11	9	11	10
Low Risk	25	29	29	27	27	23	31
その他	13	14	6	9	18	7	12
再入院	4	9	3	5	0	0	1
計	137	161	146	154	137	120	153

VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)

LBWI ; Low Birth Weight Infant (低出生体重児)

7) 他院への転院症例

診断	出生場所	在胎週数	出生体重	転院先
鎖肛	院内	38	2292	大分県立病院
BWS, 右副腎腫瘍	院外	36	3590	大分県立病院
腸回転異常症	院外	40	3126	大分県立病院
総肺静脈還流異常症	院内	39	3186	大分県立病院

BWS ; Beckwith-Wiedemann 症候群

8) 新生児用救急車の出動形態

	出動回数	搬送入院	立会いのみ	当院から転院	三角搬送
2009	34	28	1	5	0
2010	50	40	1	9	0
2011	46	32	4	9	1
2012	33	25	4	3	1
2013	26	20	1	5	0
2014	36	25	3	6	2
2015	36	29	2	5	0

9) 新生児用救急車の出動先（産科医療施設）

地域	出生場所	回数
別府市	松岡産婦人科	3
	岩永レディースクリニック	10
	あおい産婦人科	10
杵築市	くりやまレディースクリニック	2
	みやうちウイメンズクリニック	4
宇佐市	宇佐レディースクリニック	1
	佐藤レディースクリニック	1
計		31

10) 死亡症例

1 例

4. 研究業績

学会発表・講演（医師）

演題名	発表者	学会名	日付	場所
当院に搬送された小児 CPAOA 症例の検討	佐藤大祐、安成大輔、黒川麻里 後藤真希子、古賀寛史	第 95 回日本小児科学会 大分地方会	2015.3.15	大分
当院における小児ナースプラクティショナー の採用効果	柴田裕介、秋本竜也、二宮崇仁 佐藤大祐、古賀寛史	第 96 回日本小児科学会 大分地方会	2015.7.5	大分
川崎病罹患後に脳動脈瘤破裂を 発症した一例	秋本竜也、柴田裕介、二宮崇仁 佐藤大祐、古賀寛史	第 96 回日本小児科学会 大分地方会	2015.7.5	大分
大分県における先天性疾患の疫学調査	古賀寛史	第 26 回西日本臨床小児 学会・学術集会	2015.10.4	別府
外陰部出血を主訴に 受診した女兒の一例	二宮崇仁、秋本竜也、梯公彦 柴田裕介、佐藤大祐、古賀寛史	第 97 回日本小児科学会 大分地方会	2015.12.6	大分

論文・著書等（医師）

題名	筆者	誌名	年	巻(号)	ページ
乳児期早期の RS ウイルス感染 入院症例の重症度	松岡若利、古賀寛史	小児科臨床	2015	68	52-58
自然退縮した 先天性副腎腫瘍の一例	森吉研輔、古賀寛史	日本周産期新生児学会雑誌	2015	51	272-276

5. 総評

1) 2015 年の特徴

【雑感】地域住民の方々、地域の産科・小児科を始め、多くの医療機関の皆様のご支援のおかげで一年間の診療を全うすることができました。心より感謝申し上げます。ここ数年はスタッフ数の不足により診療業務に支障が生じておりましたが、2015 年度より小児科医 5 名の常勤が確保できております。別府市夜間こども診療所への出勤回数も維持できるようになりました。引き続き地域周産期母子医療センターおよび地域小児科センターとして大分県東部地域の医療に貢献していきたいと考えます。

【臨床面】ここ数年は入院患者総数がほぼ横ばいである一方、救急搬送の受入数は増加しつつあります。予防接種の増加により感染症による入院は以前よりも減少しつつあるが、現在でも小児入院患者の原因疾患として最も多くを占めています。例年と同様に RS ウイルス感染入院例が最も多く、加えて肺炎マイコプラズマの流行がみられました。腸重積症が減少しており、ロタウイルスワクチン接種効果によるものかどうか今後の疫学調査結果を待ちたいと思います。温泉地であることから、入浴中の熱傷、転倒による頭部外傷、溺水が散発的に生じています。新生児・未熟児の診療は大きな変化はありませんでした。小児診療看護師（ナースプラクティショナー）を一名配置できたことより在宅訪問看護の支援が行える状況となりました。

【研究面】この地域の症例が集約する施設である特徴を活かして、小児疾患の疫学調査を断続的に行っております。症例報告に留まらず、分析的観察研究を行うための方法論と実践を指導しているところです。

【教育面】九州大学小児科の関連施設として機能しております。大分大学小児科から小児神経外来、小児内分泌外来の診療支援を、福岡大学から小児腎臓外来の診療支援をいただいております。新生児から小児疾患までの二次医療を主体的に経験できます。毎年、当科での臨床研修を経て小児科を選択してくれる研修医がいてくれることは励みとなっています。

【その他】地域の先生のご協力を得て、将来の開業を志す小児科医師が小児科クリニックを訪問しました。二次医療施設とは異なった視点で育児支援や診療技法を学べる新しい臨床研修であり、ご紹介いただく先生とも親しくなれる制度として、ご協力いただける範囲で続けていきたいと考えております。

2) 2016 年の目標

地域の小児医療の要請に応えられるよう尽力していきます。

近隣の小児・産科施設のスタッフの方々には日頃よりご支援、ご配慮をいただき感謝しております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

国立病院機構 別府医療センター 小児科 古賀寛史

E-mail: sakuraliberty@beppu2.hosp.go.jp

医療機関からの外来受診、入院、新生児搬送などのご依頼は

(平日、日勤帯) TEL 0977-67-1111 → 小児科外来 (小児)、内線 8126 (古賀直通) (新生児搬送)

(夜間休日) TEL 0977-67-1111 (代表経由で NICU 当直医) まで よろしくご依頼致します。